

4. レイアウト

4.1. ビューの設定、登録

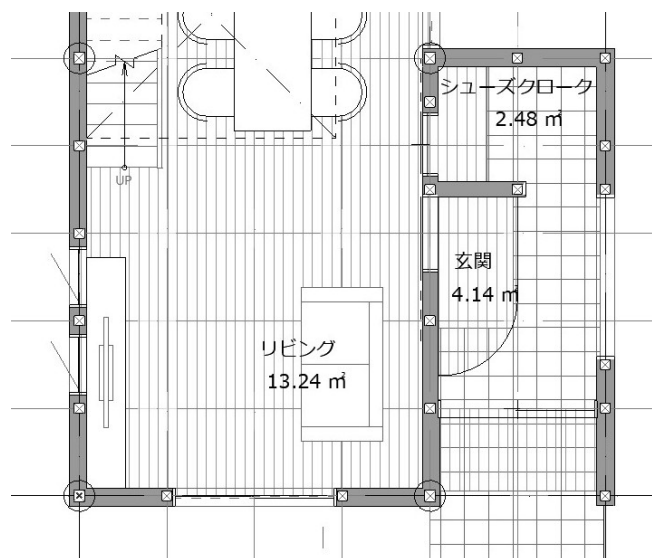
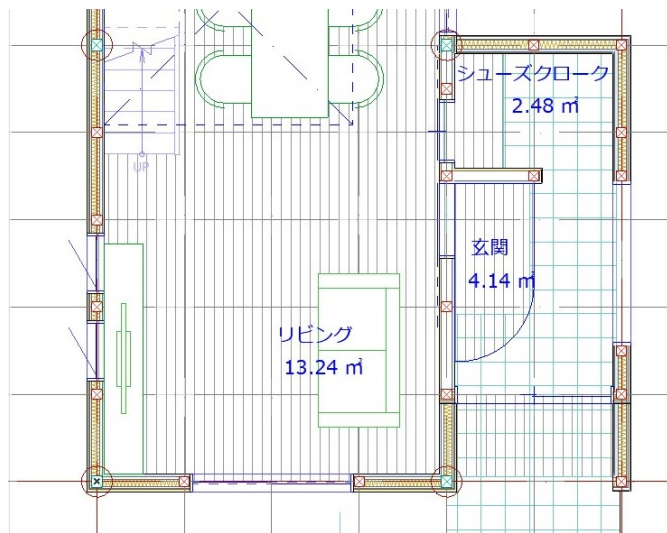
(設定はデフォルトテンプレートでのビューの調整)

ビューとは、クリックするだけで、保存したビュー設定の状態を開くことができ、レイアウトブックに図面として配置することができます。ビュー設定によって、ひとつのビューポイント（平面図など）から、カラー平面図や平面図、平面詳細図、構造図、設備図等、何通りものビューを保存することが可能です。

4.1.1. 平面図ビューの設定

次のようにビューを設定してみましょう。

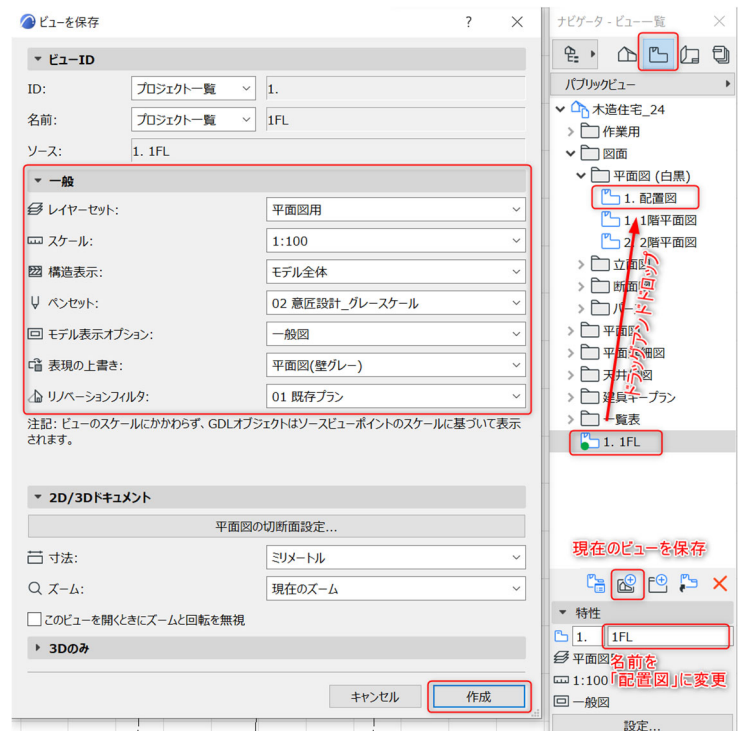
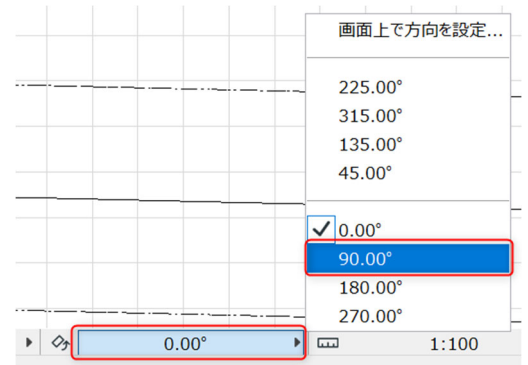
- ① [ポップアップナビゲータ]→[ビュー一覧]→[平面図]→[1階平面図]ビューを開きます。
- ② 「クイックオプションバー」を次のように設定します。
 - ・レイヤセット：『平面図用』
 - ・ペンセット：
 - 「意匠設計_グレースケール」
 - ・モデル表示オプション：「一般図」
 - ・表現の上書き：「ゾーンカラー無し」
- ③ [フロアタブ]を右クリック→[現在の設定で再定義]を選択します。サンプルの内容が上書き更新されます。
- ④ 同様の手順で[2階平面図]も変更しましょう。



4.1.2. 配置図ビューの登録

配置図のビュー登録をします。敷地を図面枠に収めるため、90° 回転させます。

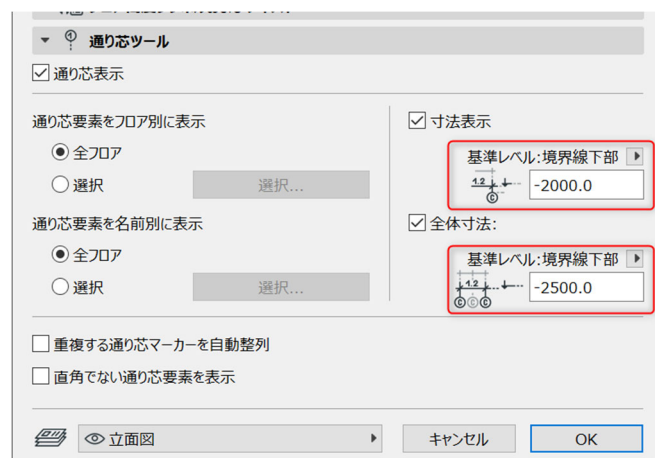
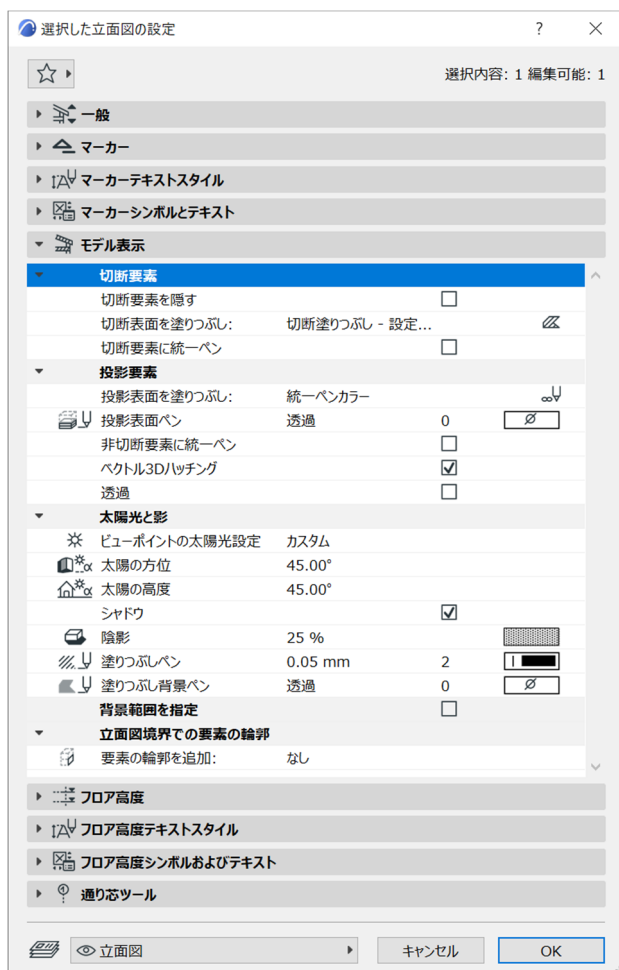
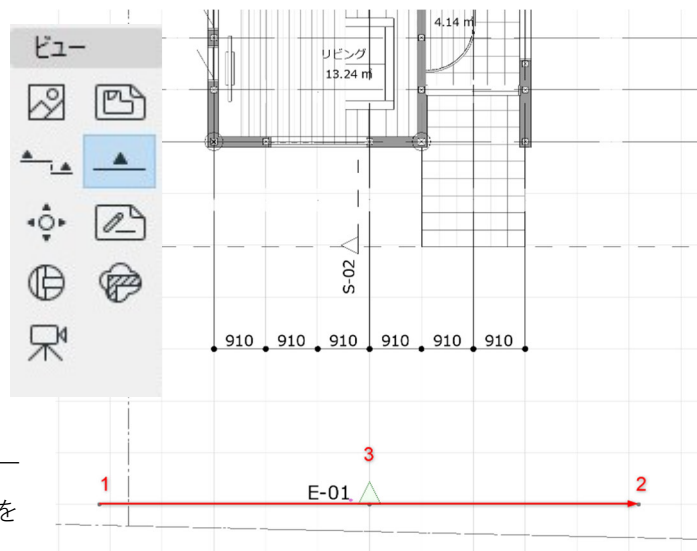
- ① クイックオプションバーの「方向 0.00°」をクリック
- ② 「90°」を選択
- ③ 平面図が 90° 回転し、寸法や文字も回転されます。
- ④ ナビゲーターの「ビュー一覧」を選択
- ⑤ 「現在のビューを保存」をクリック
- ⑥ レイヤセットを「平面図用」
スケールを「1:100」
構造表示を「モデル全体」
ペンセットを「02 意匠設計_グレー
スケール」
モデル表示オプションを「一般図」
表現の上書きを「平面図（壁グレー）」
「作成」をクリックし、登録します。
ここで登録した設定は、「ビューの設定」を開き、必要に応じて変更することが出来ます。
- ⑦ 新しく登録されたビューができました。このビューを選択した状態で、「1FL」を『配置図』に変更
- ⑧ これを「図面」フォルダ内の「平面図」フォルダにドラッグアンドドロップします。



4.1.3. 立面図ビューの設定

立面図ツールを使い、立面図を作成し、ビューを登録します。

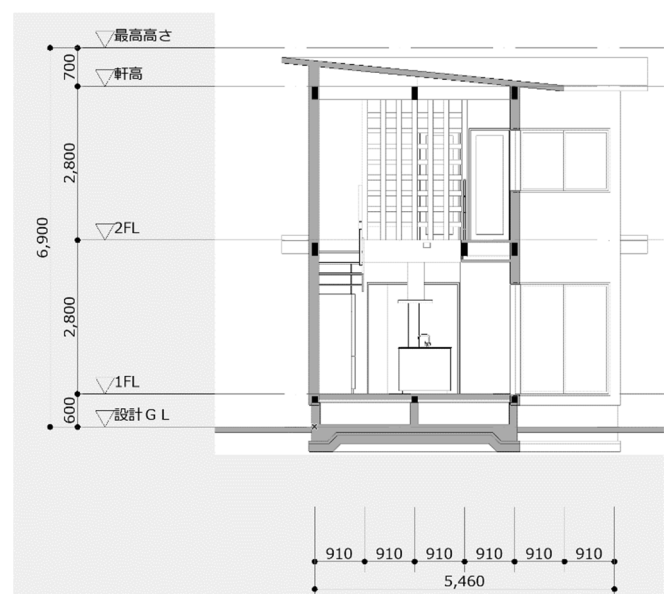
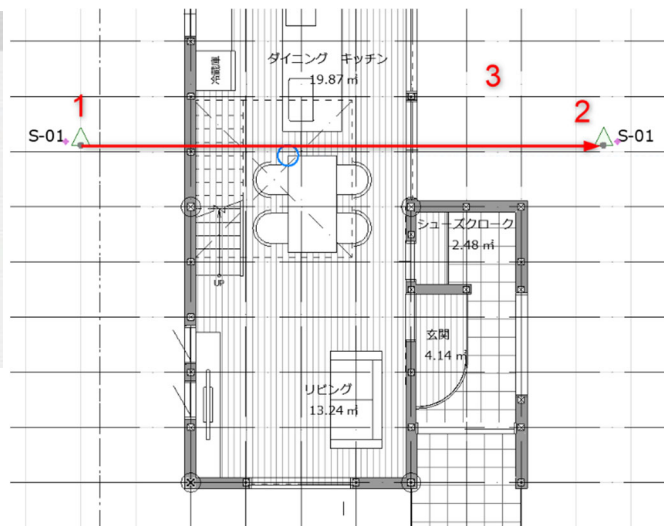
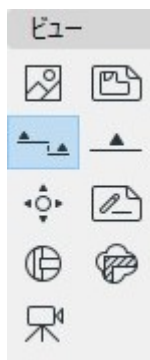
- ① ツールボックスから「立面図ツール」を選択します。
- ② 平面図上で立面図を作成する範囲をクリックし、向きをクリックし立面図を作成します。
- ③ [ポップアップナビゲータ]→[プロジェクト一覧]→[立面図]→[E-01 (自動作成モデル)] をダブルクリックして開きます。
- ④ [立面図 (E-01) タブ] を右クリック、「ビューとして保存」をクリックします。



4.1.4. 断面図ビューの設定

断面図ツールを使い、断面図を作成し、ビューを登録します。

- ⑫ ツールボックスから「断面図ツール」を選択します。
- ⑬ 図の位置で、断面線を入力し、見る方向を指示します。
- ⑭ [ポップアップナビゲータ]→[プロジェクト一覧]→[断面図]→[S 1 (自動作成モデル)]をダブルクリックして開きます。
- ⑮ [断面図 (S 1) タブ]を右クリック、「ビューとして保存」をクリックします。
- ⑯ 「名前」をカスタムに変更し、『断面図』と名前をつけ、[作成]をクリックします。



ビューを保存

▼ ビューID

ID: プロジェクト一覧 E-01

名前: プロジェクト一覧

ソース: E-01 (自動再構築モデル)

▼ 一般

レイヤーセット: 立面図

スケール: 1:100

構造表示: モデル全体

ペンセット: 02 意匠設計_グレースケール

モデル表示オプション: 一般図

表現の上書き: 上書きなし

リバージョンフィルタ: 01 既存プラン

注記: ビューのスケールにかかわらず、GDLオブジェクトはソースビューポイントのスケールに基づいて表示されます。

▼ 2D/3Dドキュメント

平面図の切断面設定...

寸法: ミリメートル

ズーム: 現在のズーム

☒ このビューを開くときにズームと回転を無視

▶ 3Dのみ

キャンセル 作成

断面図のデフォルト設定

デフォルト

▼ 一般

参照ID: S-03

名前: 断面図

新規断面図ビューポイントを作成

マーカー参照先: ビューポイント

参照先:

状態: 自動再構築モデル

表示フロア: 全てのフロア

水平範囲: ☒ 無限 ☐ 有限 ☐ 切断面のみ

垂直範囲: ☒ 無限 ☐ 有限

基準: GL

3000.0

0.0

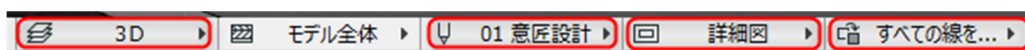
4.1.5. パースビューの登録

3Dをビューに登録します。よく見るシーンをビュー登録することで、すばやく3Dを確認したり、日時を設定し、日陰のシミュレーションを行うこともできます。

- ② [3Dタブ]をクリックし、3Dを開きます。

- ③ クイックオプションバーを次のように設定します。

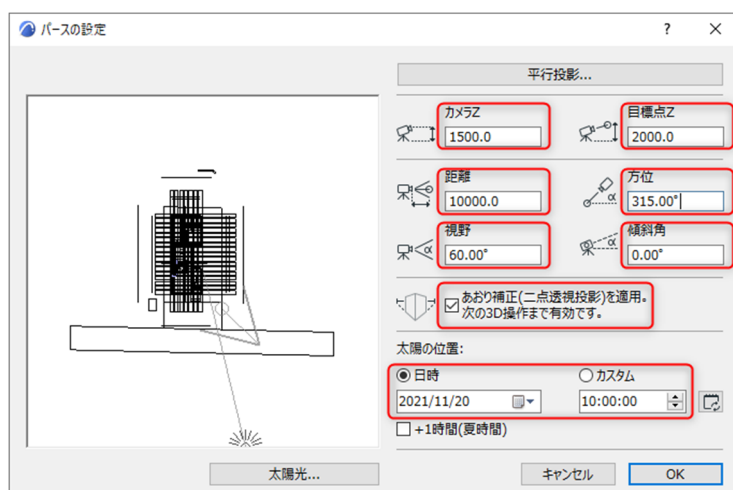
- ・レイヤーセット：3D
- ・モデル表示オプション：詳細図
- ・表現の上書き：すべての線を黒に



- ② アングルを調整し、ウインドウ上で右クリック→[3D投影の設定]を開く
目線の高さ[カメラ Z]を「1500」
目標の高さ[目標点 Z]を「2000」
目標までの[距離]を「10000」
目を向ける[方位]を「315°」
画角を調整[視野]を「60°」
傾きを調整[傾斜角]を「0°」
[あおり補正（二点透視投影）を適用]にチェックを入れます。

「太陽の位置」を『2021/11/20 10:00:00』

- ④ [3Dタブ]を右クリック→[ビューとして保存]をクリックします。
- ⑤ 「名前」を[カスタム]に変更し、「外観」と名前をつけます。



4.1.6. レンダリング

レンダリングとは、上記で設定したパースを写真のような画像を作成することです。

注意：ここで解説をするレンダリングでは「Cineware by MAXON」というレンダリングエンジンを使用しています。これは Archicad Solo という製品には含まれておりませんのでご注意ください。体験版は Full 版となっておりますので、ご体験いただけます。

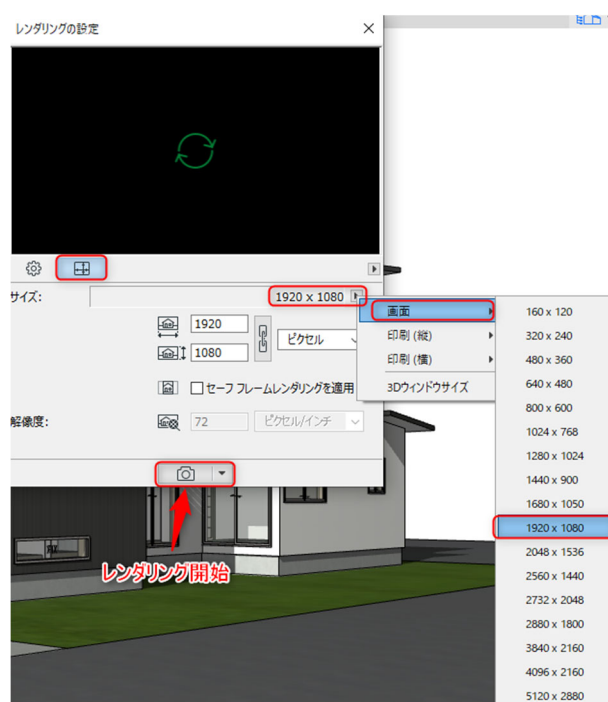
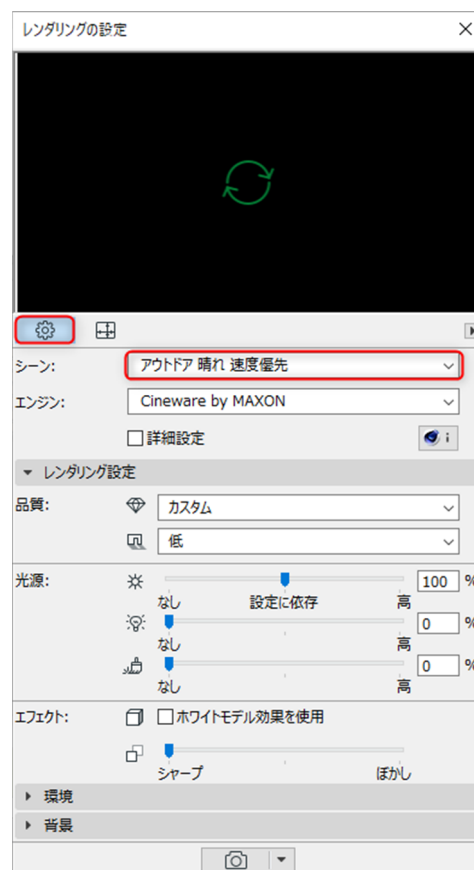
- ① [ドキュメント]→[レンダリング]
→[レンダリング設定]を開きます。
- ② レンダリングパレットの[シーン]をクリックし、「アウトドア 晴れ 速度優先」を選択します。

TIPS：レンダリングの[シーン]

Archicad では、レンダリングの設定を、[シーン]として登録をして置き、ワンクリックで利用することができます。

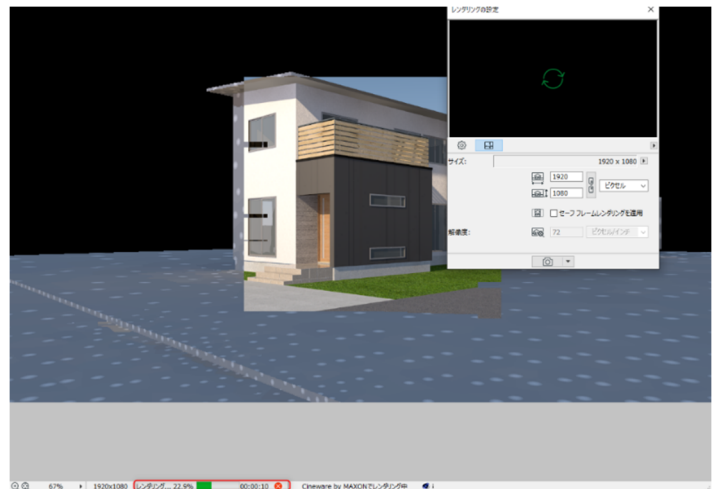
Cineware 自体は詳細の設定をすることでクオリティを上げることができますが、設計業務の中で、ある程度簡単に見栄えの良いものを作成する場合に、きれいにできる設定を登録しておけば、レンダリング設定にかける時間を極力少なくすることができます。

- ③ レンダリング設定パレットの[サイズ]をクリックし、[1920x1080]を選択します。
※このサイズを大きくすると解像度が高い画像が作成されますが、計算時間がかかります。

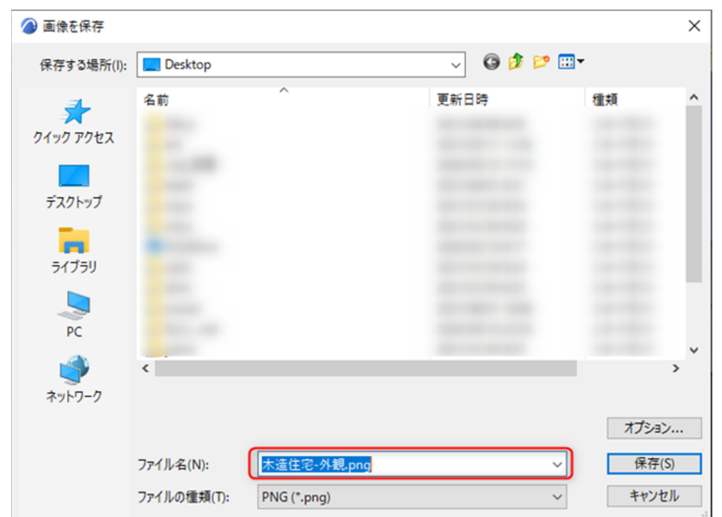


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

[レンダリング開始]をクリックするとレンダリングが始まります。下にレンダリング状況と時間が表示されます。



- ④ レンダリングが完了すると画像が作成されます。画面上で右クリックをし、[名前を付けて保存]を選択し、
「木造住宅-外観.png」と名前をつけて保存します。



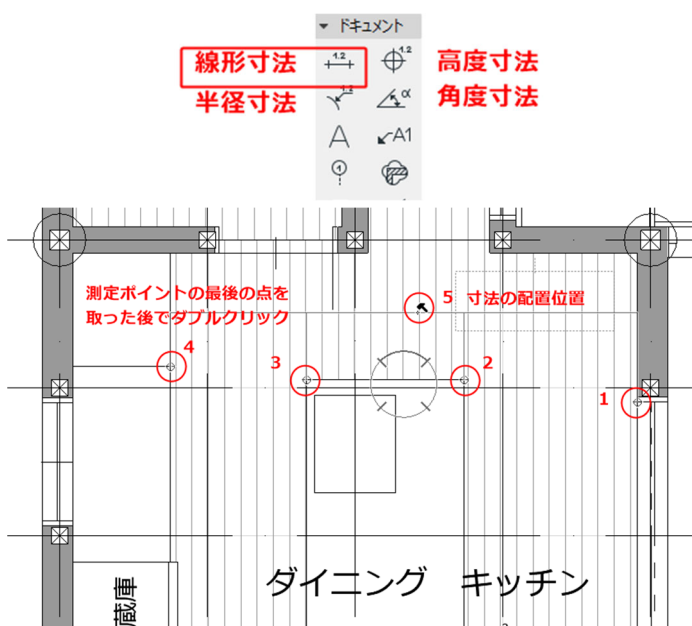
4.2. 図面の書き込み

モデルができ、必要な図面のビューを登録したら、その図面に必要な寸法や書き込みを行います。
寸法だけでなく、書き込みの文字についても、モデルに紐づいた情報を指定することで
2 DCAD のように、変更毎に変更箇所を開いて修正する手間を極力なくすることができます。
今回は、寸法と引き出し線付きの書き込みをご紹介します。

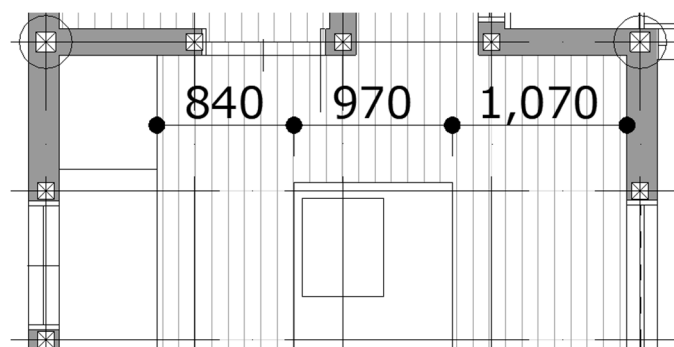
4.2.1. 寸法の記入

- ① ツールボックスのドキュメントグループから、[寸法ツール]をダブルクリックして、寸法を記入してみましょう。

- ② 寸法を取りたいポイント（端点や交点）をクリックすると○印が表示されます。測定ポイントをクリックしていき、最後のポイントの後で、ダブルクリックします。



- ③ トンカチのアイコンに代わるので、寸法値を表示したい場所でクリックします。



TIPS：測定ポイント

要素が反応する端点や交点などでクリックすると○印、任意の点（交点であっても、図形とリンクしない場合）の場合は□印が表示され、同じように寸法は表示されるが、図形に追従しません。
○印は連携する図形を変更すると寸法も追従します。

- ④ 寸法線の長さや表示方法、文字などは[線形寸法ツール]をダブルクリックし、設定ダイアログから変更ができます。

★詳しくは

「[GRAPHISOFT Help Center](#)」

「[線形寸法](#)」にて詳しく紹介しています。

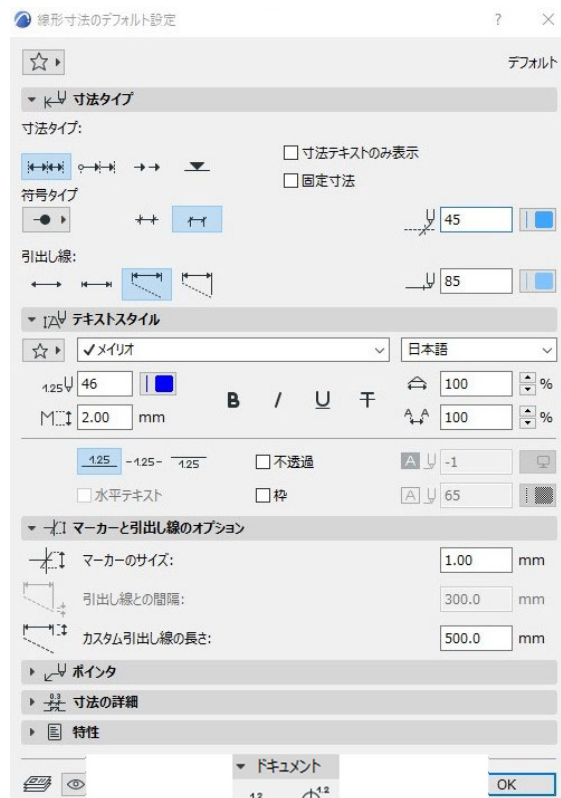
4.2.2. 注釈の記入

文字入力の方法は内容によって複数ありますが、ここでは、[テキストツール]と[ラベルツール]を紹介しましょう。

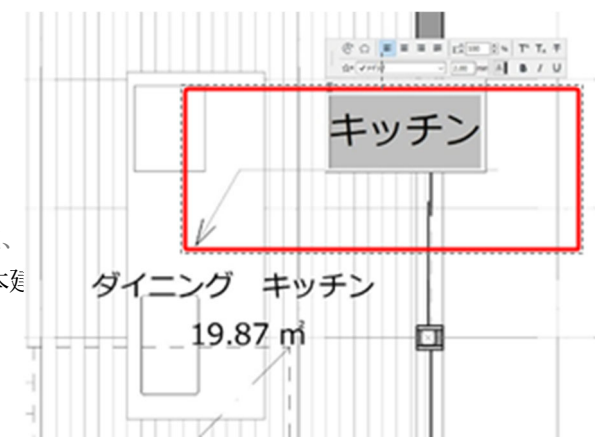
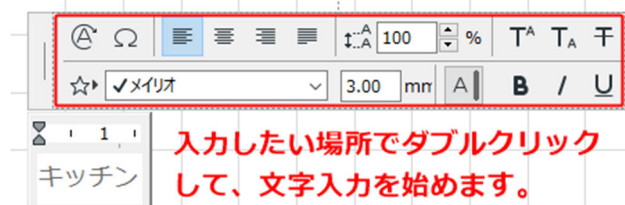
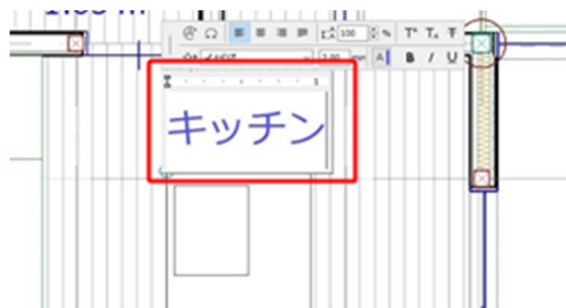
- ① ツールボックスから[テキストツール]をダブルクリックし、任意の場所でクリックして文字を入力します。

- ② 文字パレットでフォントや文字サイズ、配置基準位置など調整できます。

- ③ 引き出し文字は[ラベルツール]を使用します。

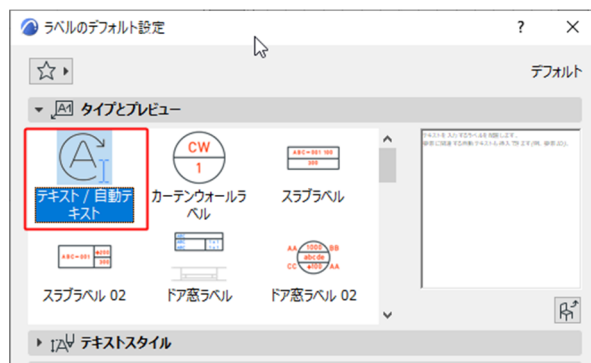


テキスト A A1 ラベル

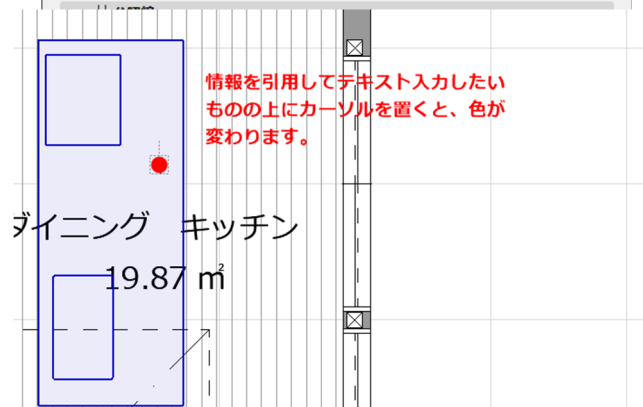


- ④ [ラベルツール]では、直接文字を入力することもできますが、モデルの情報を[自動テキスト]を指定することで、引用することができます。

- ⑤ [ラベルツール]をダブルクリックして、「テキスト／自動テキスト」ラベルを選択します。



- ⑥ キッチンの上にカーソルを置くと、色が変わったら、引き出し線の1点目の位置としてクリックします。



右図は、オブジェクトの名称やサイズの 2446x970 を出力している。サイズを変更すれば、変更したサイズが自動的に更新されて表示されます。

2 DCAD の時の様にすべて手入力で修正を行う個所を極力減らすことができ、食い違いのない図面やリストを出すことができます。

